

帯広畜産大学同窓会報

第20号 平成25年9月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学 同窓会事務局発行

新支部設立特集 1～3ページ

石川県支部の設立

石川県支部長

八木 幸隆
(昭和47年獣医)



この度、私達は石川県支部を立ち上げることが出来ました。

私の記憶では確か30年以上前（昭和53～55年頃？）に石川県でも同窓会を開いたらどうかとの大先輩の声かけもあり、私の方から能登の和倉温泉あたりで開催しようと、数人の方々に声かけをした経緯もあったのですが、いくつかの理由で立ち消えになっておりました。その何年か後に橋本良行さん（昭和56年獣医卒）が故郷の能登半島に就職され、私の勤務先（七尾市内）に訪ねて来られたことがきっかけとなり、いつしか「同窓会をやりたいね！」との話になり、彼の熱意とお世話により、ようやく平成18年9月9日に第1回の帯畜大石川県OB親睦会の開催に至りました。

その後、原則2年毎に開催しておりましたが、本年1月26日には嬉しいことに遠路より長澤学長、辻先生

お二人にご臨席頂き、石川支部設立総会と第5回帯畜大OB親睦会を金沢市内で同時開催することが出来ました。また、開催時には隣県の富山、福井のOBの皆様にも参加の呼びかけを致しまして、総勢23名での同窓会となり大変盛り上がった次第です。

現在、名簿上では石川県内の対象者は44名ということで、他の支部に比し、多分少ないと思います。その分、全国でも一番出席率の高い同窓会支部となるよう、また、お互いに時代や世代の違いを乗り越え、老いも若きも帯広の大地で学び、過ごした日々を共に語り合い、母校の発展を願う「畜大家族」として今後とも続けていきたいと考えております。

また、ホームページも立ち上げております。機会があれば見ていただければ幸いです。

(<http://ishikawa-obitikuob.jimdo.com/>)

なお、石川県において平成23年6月に「能登の里山里海」が国内初の「世界農業遺産（GIAHS）」として新潟県佐渡市と同時に認定されましたが、さらに金沢市で同12月に「国連生物多様性の10年」の国際キックオフイベントを開催するなど、能登地域の市町はもとより県民あげて多様な生物資源の利用保全運動を展開しております。そこで生物環境を守り、ひいては自然と共生する社会の実現のため、我々は動植物系の専門大学の同窓生としてお互いの職場の違いを超え、可能な限りこれらに関わっていただければとも考えております。



香川県支部の設立

香川県支部長

稲井 邦 啓

(昭和50年工学)



香川県は元帯広市長の畜大同窓会砂川副会長、事務局長の辻先生の出身地でもありまた、高松市と帯広市が「愛と幸福」の交流都市ということもあり何かと関係がある土地柄でありましたが、同窓会支部については機会がなく現在まで支部組織がありませんでした。

しかしながら、昨年12月に同窓会事務局長の辻先生より香川県支部設立のお話を頂き、有志で設立準備の会をひらき、香川県の支部設立が決まりました。そして平成25年2月16日に帯広より長澤学長、砂川副会長、事務局長辻先生のご出席を頂き第1回香川県支部総会を開催することができました。

遠くはなれた四国のこの地で同窓生とともに帯広の町、畜大のキャンパスを懐かしむことができる事になりうれしい限りです。

実は30数年前に一度、畜大四国会として四国在住

の同窓生が十数名集まり、高松で開催した事はあったのですが、その後、続く事がなく、現在に至ってしまっていました。

その時にいろいろとご苦勞をいただいたのが、多田さん（獣医47年卒 高松在住）でした。同窓会を非常に楽しみにされていたのですが、多田先輩は現在ALSの闘病中のため支部総会に参加できませんでした。けれども長澤学長、砂川副会長、辻先生の3名の方々が、会場へ向かう前にお見舞いに訪れていただき、大変喜んでいただきました。

平成23年版同窓会名簿中、香川県に住所のある方は37名です。今回の支部総会を催すにあたり長澤学長が徳島大学にいらした事もあり、徳島県・香川県の皆さん57名に案内をしましたところ18名（帯広からの参加3名を含む）の参加をいただきました。

参加者は昭和43年度卒から平成20年卒まで幅広く集まっていたが、会場も盛り上がり、皆さん非常に熱い畜大魂をお持ちで時間一杯まで話が尽きないようでした。最後に逍遥歌で締め、年に一度以上は集まろうという事で散会になりました。

近い将来に事務局は大変でしょうが、香川県だけでなく、四国4県それぞれの支部ができ、四国合同の同窓会の開催できればいいなと思っています。

帯広畜産大学、畜大同窓会の益々の隆盛を祈念して報告とさせていただきます。



ミャンマー支部の設立

ミャンマー支部長

Dr. Than Than Sint

(平成25年岩手連大)

ミャンマー連邦共和国は東南アジアに位置し、タイ、バングラデシュ、インド、中国、ラオスと国境を接している国です。日本からは西南方向に4,500マイル (4,500 miles) くらいです。日本では元々ビルマと呼ばれていましたが、1989年に、国名を Union of Burma から Union of Myanmar に変更したのに合わせて、日本ではミャンマーと呼ばれるようになりました。ミャンマーの公式名は2010年に Republic of the Union of Myanmar に変更されました。しかし、ミャンマーはまだ開発途上の国で、主要産業は農業です。そこで、家畜は食用や農作業のため飼育されているのです。このため農業や家畜の生産性を向上させるため、ミャンマーにおける農業・畜産の技術を上げることが必要なのです。そのために、ミャンマー政府は日本を含めた先進国の資金援助を受けて、その国へ政府の職員たちを派遣させ、先進技術を学ばせています。私もその一人として日本の文部科学省からの奨学金を受け、帯広畜産大学において、桑山秀人のご指導の下、家畜生産を専門として修士課程、博士課程を通じ6年間過ご

させていただきました。そのおかげで本年3月には無事、博士号をいただきました。本当にありがとうございました。

私は、博士課程を終え、この3月にミャンマーに帰国しましたが、私のように帯広畜産大学で学んでいるミャンマーからの留学生は3名ほどいます。そこで、私たちは、私の帰国する前に、ミャンマーの大学院生の教育、職業、社会コミュニティを養い育てるために、帯広畜産大学同窓会のミャンマー支部を設立しました。私以外の留学生は、まだ帯広畜産大学で勉強を続けていますので、色々な面での同窓生の皆様のご支援をよろしく願いいたします。

最後に私の近況を報告します。私は今、ミャンマーに戻り、元々の仕事であるミャンマーの一つだけの獣医大学で専任講師として学生たちに繁殖学を教えています。帯広畜産大学で学んだことを基礎として、これからもこの大学で、頑張っ家畜の研究をしていきたいと思っています。



ミャンマーの留学生とともに
(帯広畜産大学国際交流会館2013. 3)
(Than Than 向って左から2人目)



ミャンマー支部設立のきっかけとなった土幌会 (2013. 2. 1)

同窓会近況報告

会 長
由 佐 壽 朗
(昭和41年農化)



冷涼な春が長く続き、子供の日の翌日雪が降りました。

桜前線の到着が大幅に遅れた十勝ですが、温度の上昇とともに初夏を迎えました。「コブシ」「サクラ」「ムラサキツツジ」が一斉に咲き始め春は駆け足で通り過ぎてしまいました。

帯広畜産大学同窓生の皆様、ご健勝でご活躍されておられることと思います。

社会が大きく動く中で母校帯広畜産大学は我が国唯一の国立農業系単科大学としての使命を果たすべく恵まれた自然環境のもと1,300余名の学生と200数名の教職員のみなさんが食と農畜産を支え、地域および国際社会へ貢献するために日々研鑽されております。

私共同窓会は、少しでもそのお力添えになれるようにと活動を進めているところです。

早いもので70周年が無事終わり、その余韻に浸る間もなく本年は同窓会総会の年となりました。

新たに石川県支部、香川県支部、ミャンマー支部が加わり、1万4千以上の会員が同窓の輪を広げております。

本年8月10日には、第2回役員会と代議員会、そして午後から恒例の焼肉パーティーを企画しています。多数の参加で逍遙舎が笑いにつつまれる事を期待しています。また10月5日は同窓会総会を予定しています。

今回の総会は、これまでの本会の会則に不足していた慶弔内規を設け、同窓会活動や社会的に貢献された方の表彰を行うとともにお亡くなりになった先輩諸氏に弔意を表すための規定を整備したいと考えております。多くの意見も賜りたく出席をお願いいたします。

十勝総合振興局（十勝支庁）も「とち夢豚丼振興局」で十勝を全国にピーアールなど思いもかけない流れも見えます。

ともあれ会員の皆様方が健康で豊穰の秋を迎えられることを願っております。

今春は「コブシ」の花が上を向いて咲いていました。豊かな稔りを祈念しつつ同窓会本部の報告といたします。

「OZU」復活

学 長
長 澤 秀 行
(昭和53年獣医)



最近の畜大における主な取り組みには、寄付講座の設置、OZUの実施、とち夢パン工房、福島県への復興支援、食品加工実習施設の整備、獣医学教育4大学連携事業、帯広-JICA協力隊連携事業、口蹄疫を想定した訓練実習、学生によるトーストアート等々がありますが、ここでは産学官連携に関する取り組みについて、いくつか紹介いたします。

帯広畜産大学の英文名は、Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine、略してOUAVMです。でも、私が学生だった頃は「OZU」でしたので、今回、帯広動物園との連携事業を「OZU」と命名しました。本学と帯広動物園は、平成22年に連携協定を締結し、インターンシップの実施、キリンの妊娠診断等の共同研究、共同イベントの実施など種々の取り組みを実施してきたところですが、動物園開園50周年を機に、「おびひろ動物園大学(OZU)」と命名した学生参加による魅力的な動物園づくり事業を実施しています。園内には「帯広畜産大学サテライト」も開設しました。

JICA(国際協力機構)と本学は、全国の大学に先駆けて最初に協力協定を締結していますが、平成24年度から南米パラグアイ国で「帯広-JICA協力隊連携事業」を実施しています。これは、本学の卒業生を青年海外協力隊の長期隊員(約2年間)として、在学学生を短期隊員(夏季休業中の約6週間)として派遣するもので、我が国で初の試みとなります。目的は、パラグアイ国における家畜飼養並びに衛生管理技術向上のための支援を行い、同国の酪農の発展を図るとともに、国際協力経験を通じたグローバル人材の育成です。6年間の本事業では、約50名以上の学生、卒業生、教職員が関わることになります。

平成25年4月に、カルビー(株)、キューピー(株)、ケンコーマヨネーズ(株)、北海道馬鈴しょ協議会、日本スナック・シリアルフーズ協会、カルビー元会長の松尾雅彦氏の寄付による「バレイショ遺伝資源開発学講座」、平成24年11月に(株)白寿生科学研究所による「生命平衡科学講座(白寿)」の寄付講座が開設されました。また、平成24年12月には、敷島製パン(株)との包括連携協定に基づき、「とち夢パン工房」が完成しました。本格的なパン製造工程に必要な設備及び分析機器が整備され、学生実習、共同研究、職員を対象にしたパン教室等有効活用されています。

厩舎の北側にあった肉畜処理施設を改修増築し、食

品衛生管理の国際基準（HACCP）準拠の食品加工実習施設が完成しました。改修に際し、よつ葉乳業㈱及び日本ハム㈱の技術者の方々からアドバイスをいただきました。今年度は、臨床病理棟及び検査センター等の施設整備が進行中です。

他にも、学内外において、学生、教職員による多数の取り組みがなされています。大学ホームページに紹介されていますので、是非、ご覧ください。また、ホームページからは、同窓会から提供いただきましたWebカメラの映像がご覧になれます。今後とも、同窓生が築き上げた実績のもと、社会に高く評価される大学づくりを進めて参りますので、引き続き、皆様のご支援ご協力、よろしくお願い申し上げます。

理事（研究担当）に 就任して

理事・副学長

小田 有二

（昭和52年草地）



平成18年に本学に着任後、平成24年に副学長（産学官連携担当）・地域連携推進センター長を拝命し、平成25年1月1日付で理事（研究担当）・副学長に就任いたしました。

平成22年から始まった第二期中期目標期間も後半の4年目となり、中期計画の達成度をイメージできるようになってきました。文部科学省グローバルCOEプログラムの支援を受けた事業「アニマル・グローバル・ヘルス開拓拠点」は、当該期間中に大学全体で取り組んでいる代表的な研究プロジェクトです。このプロジェクトでは、獣医学と農畜産学の融合させた畜産衛生学の研究領域をさらに国際的に発展させるため、教員、若手研究者、大学院生によって構成されたセルユニットという機動的単位により、世界各地でのフィールド調査研究を展開してきました。今年度、グローバルオペレーションセンターを設立し、5年間の活動で得られた膨大かつ貴重な情報を集積し、これからの教育研究に活用することになっています。環境関係の「アグロエコプロジェクト」では、バイオマスや廃棄物の循環利用、作物生産技術の向上や微生物の有効利用、精密農業システムなどを組み合わせた環境保全型農業を構築して、作物生産性の維持と周辺環境へのリスク低減の両立を図るための研究を行っています。また、「とかちABCプロジェクト」では、ビート由来のアミノ酸誘導体であるベタインおよびチコリ由来の天然多糖類であるイヌリンをはじめとする地域生物資源の健康機能性について解明するとともに、食中毒菌の新規検出方法を開発するというような食品検査センターの設置へと発展する成果が着実に発表されています。

今後は、教職員・学生がこのような研究プロジェクトに積極的に参加すると同時に、得られた成果がこれまで以上に社会還元できるような体制づくりに精一杯努力する所存であります。同窓生の皆様のご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



士 幌 会

士幌会支部長

今 田 忠 夫

（昭和48年別科）



今回、士幌会を紹介をさせて下さる機会を与えて頂き大変嬉しく思っております。母校から30キロほど北に農業、酪農を基幹産業とする私たちの住む士幌町があります。現在、現役を引退された先輩から、今年母校を卒業し新社会人になった新人まで78名の同窓が、農協、役場、食品加工工場、酪農、畑作の各分野の第一線で働いております。

毎年1月には町内の居酒屋で例会を行い、7月にはわが家の格納庫で焼き肉パーティを行い町内各職域で頑張っている仲間が親睦を深めているところです。

今年もまた社会人になった新しい仲間を迎えましたが、若い彼らも積極的に参加してくれています。

2年前の士幌会の例会には長澤学長が士幌まで来て下さり、共に楽しい一時を過ごせた事は今も仲間の楽しい思い出でありますし、また日々の励みになっております。士幌会のメンバーにとって本当に嬉しい事がありました。今年の例会は2月1日にいつものように地元の居酒屋で行いました。今回はマンマーとマダガスカルからの留学生と個人的に機会を得て交流をしていたのですが、士幌会の例会に参加して見ませんかと声をかけましたら、積極的な返事が帰ってきました。彼らに日本の同窓会を見て欲しいという思いもあり、また士幌会にとっても良い国際交流の機会になると思い行いました。彼らもとてもポジティブで会話も弾み、短い一時ではありましたが、同じ学舎で学んだ仲間同士、楽しい時間を共にすることが出来ました。一生懸命に学んで帰り祖国の為に働こうという気持ちがひしひしと感じました。殊にビルマは今マンマーと呼ばれていますが、アウンサンスーチー女史一人だけではなく、彼らもまた祖国マンマーを一日も早くより良い国にしたいと願い頑張っている、そんな気持ちが伝わってきました。

先日、彼らからマンマー支部を作りましたとの連絡が届きました。本当に嬉しい知らせでした。大学、

同窓の仲間との絆を同窓会を通してさらに強くして欲しいと願っています。そんな彼らに同窓としてまた同窓会としてこれからも声援を送り続けたい、そう思います。

土幌会、これからも例会や焼き肉パーティを行い、その時々集まれる同窓が職域を越えて集い親睦を深めていきたいと思っています。

平成25年同窓会オホーツク支部総会開催

オホーツク支部長
堀 次 郎
(昭和42年獣医)

去る、7月13日、オホーツク支部総会が、一昨年と同じく佐呂間湖畔に面した悠林館において開催いたしました。当日は長澤学長・由佐同窓会長・辻事務局長の皆さんがお忙しい中ご参加下さいました。

オホーツク支部には約320名余りの同窓生がおり、その全員に案内を出しましたが、当日の参加者は1割弱でした。しかし、参加者の中には36年獣医卒の前田さんや今年の春畜産環境学科卒の佐藤君など広い年齢層の集まりとなりました。

当日は素晴らしい天気にも恵まれ、懇親会はオホーツク支部の恒例になりつつある、バーベキューハウスでのジンギスカンがメインでした。今回も懇親会で使ったのは地元佐呂間で生産しているサホークの6ヶ月齢の肉(肝臓・心臓・舌を含む)・ホタテ・ホッカイシマエビなどであり、ジンギスカンのタレは言うまでも無く“繁殖教室小川式タレ”の復元でした。学長からは畜大の牛乳・ワイン・ソーセージの差し入れがありました。更に、昨年畜大に入学した学生の両親が学長に会いに来て美味な冷酒の差し入れもあって全員がご相伴にあずかりました。

学長・同窓会長・事務局長の皆さんも同窓生であることから、参加者の皆さんには何のわだかまりも無く、4時から9時過ぎまで全く時間の経つのも忘れ飲み、語りあっていました。



主催者としては一人でも多くの同窓生が集まり、多方面にわたり同窓生の絆を深めて欲しいと願っていますが、これでよかったのかと思っている次第です。

札幌同窓会の活動

札幌支部事務局
迫 田 耕 治
(昭和52年経営)

札幌同窓会の事務局を務めております迫田です。

畜大を卒業して札幌に来た(勤めた)のが昭和53年ですが、職場に同窓の大先輩がおられ「札幌同窓会の事務局をやれ」と言われて事務局を手伝ったのか運のツキ? 他(の職場)の事務局担当者は転勤等で離れていくのに、転勤の無い職場だったので、そのまま今まで35年近く同窓会事務局を務めております。

札幌同窓会と名乗ってはいいますが、範囲は札幌市だけでなく近隣の江別・北広島のみならず岩見沢・小樽までの広域を含むかなり広域を守備範囲としております。「勤務先は札幌市内だけど住んでいるは…」という方が多くおられるので「札幌市及びその近隣市町村に居住あるいは勤務されている方」を札幌同窓会の会員ということにしております。

そのため人数は1,000人を優に超えていますが、転勤族の方も多く、なかなか同窓の方を把握するのが難しい状況にあります。同窓会総会の案内をする際には同窓会本部に名簿ラベルの作成を依頼しておりますが、転勤・転居されても同窓会名簿の住所はそのままという方も多くおられ、頭を抱えております。転勤・転居されましたら同窓会本部へもお報せいただけたらと存じます。

行事としては隔年で総会を開催しており、毎回70、80名近くが参加されます。

今年で開催年にあたりますので、11月9日に開催する予定で取り進めております。多くの方々の参加をお待ちしております。

関東同窓会の近況

関東同窓会
萬 場 光 一
(昭和41年獣医)

関東では6月で梅雨に入ったものの当初は空梅雨続きで、蒸し暑くも無く過ごし易い毎日でした。ところが関東同窓会総会の開催される15日(土)前後から、台風一過の蒸し暑い陽気となりました。この同日18時から銀座7丁目ライオンで開催された同窓会の様子をご

報告致します。

大学からは長沢秀之学長、三竹俊之副学長兼事務局長、由佐壽朗同窓会会長と辻 修事務局長に御出席を頂きました。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。畜大からの皆様にはとても蒸し暑いお出迎えとなりました。総会は69名の御出席を頂き盛況でした。先ず、開会に先立ち、物故会員7名（20V等々力距夫さん、25V亀谷勉さん、25C島滋夫さん、30D時田茂光さん、31D蒲原和夫さん、34D山田健雄さんと46D山内章良さん）に対して黙祷を捧げました。会長の挨拶の後総会に入り、総会次第では平成24年度事業報告、会計報告等がされました。更に、39V卒の尾形眞二さんが叙勲（瑞宝章小授賞）されました事がご報告されました。続いて懇親会に移りました。先ず、渡部憲副副会長（32V）の開会の辞があり、次いで長沢秀之学長から大学の現況等と敷島パンからの寄付講座が設置されたとのお話があり、時代の流れを実感する様な出来事でした。由佐壽朗同窓会会長からは、今年度は同窓会総会の年に当たるので、その事業計画等の報告がありました。永江巖副会長（23C）に寄る乾杯から懇親会に入りました。各グループでの歓談は勿論、恒例のプロのコーラスグループの歌も入り大盛況でした。予定時間を過ぎましても未だ話し足りないという状況でしたが、守田貞副副会長（28V）による閉会の辞を以て、来年の再会を確約しつつお開きになりました。

以上が平成24年度関東同窓会総会の主な内容でございます。



同窓会大阪支部近況

大阪支部

藤 崎 泰 造
(平成元年畜産環境)

天候不順にTPP、農業者のご心労いかばかりかと察します。お笑い至上主義の大阪人でさえも集えば政治的な話題にならざるを得ない今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、難しい問題はさておき近況を報告させていただきます。まずは昨年12月8日に行われました総会兼忘年会です。今回久しぶりに大阪支部兵庫支部の合同開催となり、砂川同窓会会長、長澤学長をお招きし大阪市内の貸会場にて参加者60名余で盛大に開催されました。特に今回は平成24年や23年卒という超若手の参加が多かったのが収穫でした。また企画としては北海道食材持込によるフューチャーリング「炉辺のあかり」、懐かしい帯広の名店をと、魚も肉も野菜もオール北海道産。昨年尼崎市内に北海道食材のお店をオープンされた中川会長にご協力いただいたほか、12月にガイアの夜明けの番組にもなったファームデザインズの海野社長（59年酪農卒大阪市出身）には、大人気のチーズケーキを！さらに厚岸産牡蠣やカジカまでご手配いただきました。久しぶりのカジカ汁美味かった！また、生ユッケ問題以降苦戦していた十勝名物「牛とろ」を十勝スロウフードの藤田社長（62年環境卒）にご提供いただき堪能しました。先輩方の中には今回初めて「牛とろ」を食された方も多く、とても喜んでいただきました。近頃学生協にも「牛とろ丼」が復活したと聞きました。よかったですね。

それにしても畜大OBの食べ物への執念はすごい。誰一人自己紹介近況報告をすることなく、奪い合うように食材にむしゃぶりつき、ひたすら食べまくる。そして時間切れ。バタバタと調理配膳に徹してしまった事務局としては、これでいいのか？という思いも残りましたが…。まあ、皆さん楽しかったようなので、よしとしましょう。

とにかく畜大OBはよく食べる。難しい問題は同窓会の場には相応しくないかもしれない。とにかく食べよう！北海道の食材を食べて広めることで北海道の農業に貢献する。これこそ同窓会大阪支部に出来るささやかな農業支援！！

次は6月29日(土)恒例の服部緑地公園BBQ大会。ここでももちろん北海道食材を大いに食べ口コミで広めます。大阪支部は同窓生の皆様の生産物や六次産業化製品を食べて応援いたします！

支部総会に大学より3氏の御臨席あり

鳥取県支部事務局

福 本 幸 久
(昭和46年獣医)

我、鳥取県支部（全国で1番小さな支部？）は、ほぼ毎年総会を開いておりますが、昨年11月17日～18日に米子市皆生温泉での支部総会には、大学より、多忙の中、また遠路の所、3氏（長澤学長、由佐同窓会長、辻事務局長）の御参席があり、誠に光栄な事でありました。学長より大学の近況のお話後、カニのフルコー

スを肴に情報交換等遅くまで、楽しい時間を過ごすことができました。

しかし、会員そして由佐同窓会長の急遽のご参加であったので、一泊付きの会であり、部屋割りに工夫が必要となりました。

その結果、4人部屋に5名「学長、同窓会長、事務局長、と太田垣支部長そして島根支部より参加していただいた益田氏（V51年）」となり、部活の合宿状態となってしまったのです。申し訳なく思っております。今後は、余裕を持って準備をしなければならないと反省をしております。

鳥取県支部会員は別科を入れますと20人以上になりますが、今回総会に参加していただいた会員は5名です。掲載しております写真は、その時、奥鳥取大学教授のデジカメをお借りして撮っていただいたものです。

前列左から由佐同窓会長、長澤学長、太田垣支部長、辻事務局長です。後列左から奥夫妻（S51年獣医）、益田氏（S51年獣医—島根県支部会員）、星野氏（S

59年畜環）、福本（私）、畦地氏（S50年草地）となっております。

会員相互の親睦を深めるため、今年も11月に総会を開く予定です。

終わりに、畜大並びに同窓会の益々のご発展を祈念申し上げ、報告といたします。



訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。[敬称略]

出雲一郎 (S18高等獣医)	浜吉昭一 (S25農専・酪農)	中田一夫 (S30酪農)
金子泰章 (S19獣医畜産)	高田和男 (S24農専・農芸)	後藤健次 (S32酪農)
酒井鐵雄 (S19獣医畜産)	中田盈 (S24農専・農芸)	伊東実 (S34酪農)
小野寺昇 (S19獣医畜産)	田中徳雄 (S25農専・農芸)	藤田幸一 (S37酪農)
永井甚一郎 (S20獣医畜産)	小林澄子 (S26農専・農芸)	伊藤陽子 (S50酪農)
植田純次 (S20獣医畜産)	岩井正和 (S25農専・農学)	松永寿 (S31総合農学)
等々力矩夫 (S20獣医畜産)	赤塚喜一郎 (S22農専・専修)	小笠原寛 (S32総合農学)
藤谷和寛 (S20獣医畜産)	高橋義久 (S29獣医)	鎌谷久夫 (S35総合農学)
萩原和夫 (S20獣医畜産)	高井哲也 (S30獣医)	荊木義治 (S35総合農学)
吉田薫 (S22農専・獣医)	宮部正英 (S33獣医)	服部正 (S35総合農学)
江村達男 (S22農専・獣医)	早坂恭二 (S34獣医)	渡辺光 (S36総合農学)
青柳和加男 (S22農専・獣医)	三神紀明 (S38獣医)	堀之内清志 (S36総合農学)
池田孝 (S22農専・獣医)	紀藤捷治 (S41獣医)	小玉貞 (S38総合農学)
中林六男 (S22農専・獣医)	木戸実 (S46獣医)	渡辺洋二 (S44農業工学)
勘川二郎 (S23農専・獣医)	山崎真嗣 (S48獣医)	橋本義夫 (S43草地)
亀谷勉 (S25農専・獣医)	手越達也 (S58獣医)	伊藤潔 (S48草地)
及川武 (S25農専・獣医)	小島英里 (S61獣医)	屋山節 (H1畜産環境)
堀広 (S24農専・酪農)	上村俊一 (S52院・獣医)	門前寛 (S40草地畜産専修)
神義信 (S25農専・酪農)	小崎正勝 (S28酪農)	東条衛 (旧教官)
川越祐作 (S25農専・酪農)	片山雅弘 (S28酪農)	
渡辺寛 (S25農専・酪農)	三富繁夫 (S30酪農)	

*2012年10月から2013年7月までに、本部事務局にご連絡をいただきました。



総会および懇親会のご案内

平成25年 8月吉日

帯広畜産大学同窓会会員各位

帯広畜産大学同窓会長

由 佐 壽 朗

平成25年度の帯広畜産大学同窓会総会と懇親会を下記の要領で開催いたします。会員各位のご出席をお願い申し上げます。

記

開催日時：平成25年10月5日（土曜日）午前11時より

場 所：帯広畜産大学 講堂

懇 親 会

開催日時：平成25年10月5日（土曜日）総会終了後

場 所：逍遙舎

会 費：4,000円

なお、大変恐縮ですが、総会、懇親会へご出席をいただける方のみ、同封のハガキに切手を貼り所定の事項をご記入の上、9月27日（金曜日）までに必着でご投函下さい。これも経費節減のためとご理解いただければ幸いです。

不明な点は事務局にお問い合わせ下さい。

なお、メールおよびFAXによる申込みも受け付けます。 E-mail : dousou@obihiro.ac.jp

FAX : 0155-49-5996

同窓十勝会例会のご案内

同窓十勝会では、次のとおり例会を催すことといたしました。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成25年10月5日（土）10時30分～

場 所：帯広畜産大学 かしわプラザ

問い合わせは、同窓十勝会幹事長 三津原（工学S55）十勝農協連総務部長

0155-24-2130

釧路支部総会のご案内

釧路支部では、次のとおり総会・懇親会を催すことといたしました。
多くの方々のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成25年10月26日（土）18時～

場 所：アクア・ベール（釧路市栄町8-3 TEL：0154-23-8211）

会 費：6,000円／当日徴収いたします。

問い合わせは、釧路支部事務局 釧路地区農業共済組合・阿寒釧路家畜診療所
鮎川（獣医H15）0154-66-2711

札幌同窓会総会のご案内

札幌同窓会では、次のとおり総会・懇親会を催すことといたしました。

開催のご案内は、札幌市及び石狩支庁・空知支庁（一部）・後志支庁（一部）にお住まいの方に後日、お送りする予定です。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成25年11月9日（土）15時～17時

場 所：KKRホテル札幌（札幌市中央区北4条西5丁目）

会 費：6,500円／当日徴収いたします。

問い合わせは、札幌同窓会会長 田村（獣医S39）011-661-7575

中国地区同窓会総会のご案内

中国地区同窓会では、次のとおり総会・懇親会を催すことといたしました。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成25年11月9日（土）17時～

場 所：岡山市内（未定）

近日、畜大同窓会HPにてお知らせします。

九州・沖縄支部総会のご案内

九州・沖縄支部では、次のとおり総会・懇親会を催すことといたしました。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成25年11月16日（土）18時～

場 所：ホテルコムズ福岡（福岡市博多区博多駅前2-8-15）

会 費：6,500円／当日徴収いたします。

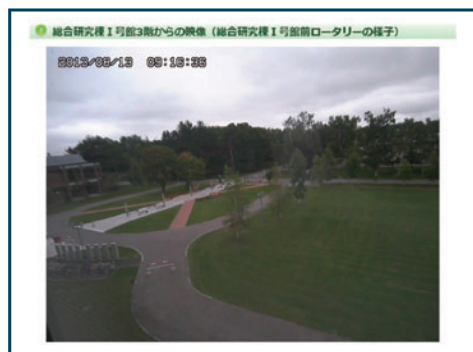
問い合わせは、事務局長 高木信紘（獣医S42）092-811-0849

同窓会ホームページのリニューアルと 畜大ライブカメラの設置について

同窓会事務局長 辻 修
(昭和53年工学)

昨年より、多くの支部総会に長澤学長、由佐会長と出席させていただきました。その中で遠く帯広を離れた会員より、帯広畜産大学のライブ画像が見たいとの多くの要望を受け、同窓会がライブカメラを寄付する形で、畜大のライブ映像をホームページから閲覧できるようになりました。

下の画面のように、帯広畜産大学ホームページのトップページの左下と同窓会ホームページ左下に「畜大ライブカメラ」のバナーが付いております。ぜひ一度ご覧になってください。ただし、肖像権の問題もありますので、学生の顔が特定できないよう、遠景となっておりますことをご容赦ください。



編集後記

去る8月10日に、同窓会恒例の焼肉パーティーを行いました。今回は、午前中に役員会、代議員会を開催し、その懇親会も兼ねたため総勢40名で楽しいひと時を過ごしました。これまで代議員の懇親会はなく、今回は初めての代議員を含めた会となり、年代を超えた同窓生の絆が一層、強いものとなりました。

また、同窓生の絆の話としては、この9月28日に帯広畜産大学の東日本大震災復興支援事業の一環として、本学学生を福島県飯舘村（菅野村長：S44草地卒）に派遣し、住民避難地域（福島市）において

炊き出しを行う予定となっています。この事業に対し、福島県同窓生も力を貸していただくこととなり、またこれをキッカケとして、同窓会福島支部も立ち上がる手筈となりました。これに対して同窓会も、由佐会長、砂川副会長を福島に派遣し、福島県支部の皆様にもエールを送るとともに、絆を深めていく予定であります。世間では、アベノミクスの陰で、震災の復興がとかく忘れがちにはなっておりますが、この震災を風化させないことこそが、被災にあった関係者、そして今もその影響を受けている福島の同窓生に対する一番の支援ではないかと思っております。このような活動に対しても、今後も皆様の支援をよろしく願います。（文責：辻修）

帯広畜産大学同窓会会則

昭和36年7月7日制定
平成5年10月16日改訂
平成9年10月18日改訂
平成11年10月23日改訂
平成13年10月6日改訂
平成19年10月13日改訂

第1章 総 則

- 第1条 本会は帯広畜産大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員相互の連絡と親睦、並びに帯広畜産大学の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 同窓会報の発行
 2. 同窓会名簿の発行
 3. 帯広畜産大学の後援
 4. その他本会の目的を達成するための必要な事業
- 第4条 本会の事務局は帯広畜産大学内に置く。

第2章 会 員

- 第5条 本会の会員は次の資格を備うるものとする。
1. 帯広畜産大学及びその前身の卒業生
 2. 帯広畜産大学畜産学専攻、大学院畜産学研究科、及び別科修了生
 3. 岐阜大学大学院連合獣医学研究科及び岩手大学大学院連合農学研究科の修了生で本学の講座に所属したものの
 4. その他代議員会で認めたもの
- 第6条 本会は帯広畜産大学及びその前身の同窓会以外の教員を特別会員とする。
- 第7条 会員は住所、その他の異動があった場合は、その都度本会に速やかに通知しなければならない。

第3章 役 員

- 第8条 本会は帯広畜産大学長を名誉会長に推薦する。
- 第9条 本会は次の役員を置く。会長1名、副会長若干名、事務局局長1名、庶務3名、会計3名、名簿編集委員3名及び監事2名。ただし、会長が必要と認めた場合は役員を追加することができる。役員会は前記の役員で構成し、本会の日常的な運営にあたる。本会は役員会の推薦により顧問を置くことができる。
- 第10条 会長及び副会長は代議員会において会員中より選出し、総会の承認を受けるものとする。その他の役員は役員会において会員中より選出し、代議員会の承認を受けるものとする。役員及び代議員の任期は一期二年とし、再選を妨げないが、会長の任期は二期を越えないこととする。
- 第11条 会長は本会を代表し、会務を統理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 第12条 事務局局長は庶務と共に会務を担当する。
- 第13条 会計は会費を徴収し、本会の資産管理と予算の適切な執行を担当する。
- 第14条 名簿編集委員は同窓会名簿の発行を担当する。本委員は名簿の編集の円滑化を計るため、名簿編集委員を委嘱することができる。
- 第15条 監事は本会業務の執行及び会計の状況を監査する。
- 第16条 役員会は会長が招集しその議長となる。本会は構成役員

の過半数の出席で成立し、会の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。

- 第17条 役員会は支部等から若干名の代議員を委嘱し、重要な会務を審議するために役員と代議員とで構成する代議員会を置く。
- 第18条 代議員会は会長が招集しその議長となる。代議員の3分の2以上の署名により会議の目的事項を示して請求があったときは、会長は代議員会を招集しなければならない。代議員会は構成員の過半数（委任状を含む）で成立し、議事は過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第19条 代議員会は次の事項を審議する。
1. 予算及び決算
 2. 会費の変更
 3. 重要な資産の処分
 4. その他重要な事項

第4章 総 会

- 第20条 総会は通常総会と臨時総会とする。通常総会は原則として隔年で開催するものとする。臨時総会は代議員会において必要と認めたととき、また10分の1以上の会員の署名により会議の目的事項を示して請求があったときはこれを開くこととする。
- 第21条 総会は会長が招集し、その議長は会員中より総会で選出する。
- 第22条 次の事項は通常総会においてその承認を受けるものとする。
1. 会則の変更
 2. 役員人事
 3. 資産目録
- 第23条 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第24条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに充当する。

第5章 資産及び会計

- 第25条 本会の重要な資産を処分するには、代議員会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。
- 第26条 会員は終身会費として卒業または修了後速やかに20,000円を納めなければならない。但し、特別会員は会費を免除する。
- 第27条 本会の活動を支援していただく目的で、帯広畜産大学に入学される新入生に同窓会協賛金20,000円の納入をお願いする。この協賛金は卒業あるいは修了時に自動的に終身会費に切り替わるものとする。但し、何らかの事情で途中退学されたときには、本人からの請求があれば返金するものとする。
- 第28条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

第6章 支 部

- 第29条 本会はその目的を達成するために、必要があるときには支部を設けることができる。
- 第30条 支部を設置しようとするものは、その代表者から本会に届け出なければならない。
- 第31条 支部は支部会において、特別の定めをすることができる。

付 則 この会則は平成19年10月13日から施行する。